

医療問題調査研究特別委員会会議録

日 時 令和元年9月13日（金曜日）10時30分～11時04分

場 所 議員控室

出席者 平山委員長、磯野副委員長、金木委員、阿部委員、工藤委員、船本委員、
小寺委員、逢坂委員、舟見委員、村田委員、森委員

事務局 豊島事務局長、杉野係長

平山委員長（開会） 10:30～10:31

皆さん、3日間にわたり定例会、今日までお疲れさまでした。お疲れのところ、ただいまから医療問題調査研究特別委員会を開催いたします。

今日の議題といたしましては、離島地区の医療の現状についてということであります。特に皆さんもご存じでありますけれども、天売診療所においてこの4月から常勤医が不在となっております。そしてまた、新聞報道に出ておりました、看護師さんが9月30日付で退職になるという報道がありましたので、天売診療所の現状、診療体制等状況を行政のほうから説明を受け、その後に皆さんから意見を出していただきたいと思っております。

また、町長におかれましては、定例会でお疲れのところご出席いただきまして、ありがとうございます。

それでは、担当課のほうからまず説明を受けたいと思っております。よろしく願いいたします。

1 離島地区の医療の現状について

担当課説明

説明員 駒井町長、今村副町長、鈴木課長、棟方主幹

鈴木課長 10:31～10:42

それでは、私のほうから今委員長言われたような内容でご説明をしたいと思います。座って説明させていただきます。

資料としてお配りしました道立天売診療所の当面の診療体制についてという部分と夜間、休日の緊急時の連絡先、診療所からのお知らせという3枚を資料としてお出ししておりますけれども、これは道立診療所と道の地域医療課のほうから出された文書であります。先ほど委員長おっしゃられたとおり、8月20日以降看護師が不在になるというこ

とでの診療所と地域医療課からの文書であります。実は昨日、議事が終わりましたので私が席に戻ったところ地域医療課から連絡があって、折り返し連絡が欲しいということで折り返し連絡をしたところ、看護師さんが辞表を撤回されて、残っていただけるという状況になったという連絡が入りました。なので、医師は現状不在のままなのですけれども、看護師は今までどおりいるという状況になったという一報が入りましたので、まずもってご報告をいたしたいというふうに思います。

現状ということですので、ペーパーとは内容が変わってきますので口頭で説明をさせていただきますけれども、4月から医者が不在ということで、2枚目のペーパーの夜間、休日等の部分につきましては、従前からなのですけれども、まず119番に連絡をしていただいて、それぞれ対応する。まず、消防署に連絡が入りまして、分遣所に一報が入って、分遣所及び役場天売支所が緊急対応に向かいまして、その後診療所に運ぶなり看護師さんが迎えに行くなりというような状況で対応しているという状況です。でありますので、これからもお医者さんは不在ということですので、その部分に関しては今までと同様という形になります。

それと、3枚目の診療所の診療体制というところで会計事務の部分なのですけれども、道の規則で常勤の職員が2名以上ないと現金は扱えないということで、看護師さんがいなくなるということで事務職員が1名というふうな状況になるので、診療所の窓口では現金は収受できないという状況になるという説明がなされたのですけれども、これに関しましても看護師さんが残るということですので、今までどおり診療所の窓口で診察料を支払えるという状況になるというふうなことであります。

あと、先ほどの看護師さんが残るというふうな形になった経過でありますけれども、9月の3日の日に道のほうで天売の島民の方々に対しまして島民説明会ということで説明会を開きました。その際私も同席をしていたのですけれども、その席の中で看護師さんのほうから、天売の島民の方に対していろいろとお話があった中で、天売島民の方からぜひ一生懸命やっただいて残ってほしいということがストレートにありまして、その後考えたりいろいろした結果、残って頑張るというような心情が変わっていったというようなことで話を伺っております。でありますので、看護師さんにつきましては当面、今後のことは個人のことにもなりますのでわかりませんが、看護師さんについては一安心というふうな状況になろうかと思います。

あと、お医者さんの確保につきましては、道の地域医療課のほうでさまざま努力をしていただいているのですけれども、現状まだ見つからないという状況です。説明会の中でも天売島民の方のほうからいろいろ提案ですとか意見があった中で、1名の先生に常勤で来ていただくよりも、大きい病院と提携をしてローテーションを組んで来ていただくとか、そういうことはできないのかというような意見があったのですけれども、道の地域医療課のほうとしてもそういう方法も実は考えていて、打診を何か所かしてい

る病院があるのだけれども、病院のほうも医師不足ということで、なかなか色よい返事がいただけていないという状況だという説明がありました。

あと、町のほうからは、当然ですけれども、町長が札幌に行った際、時間があれば毎回寄っていただいて、状況を確認いただいておりますという状況でありますし、私どもも地域医療課の事務方のほうとは常日ごろ情報交換をして、本当によろしく願いしたいというところをお願いしているという状況であります。あと、これは9月3日の説明会の後地域医療課の事務方の方と話したのですけれども、今回天売島民の方たちと接触、お話をさせていただいて、本当に切迫したという部分が、今までも当然わかっていたのですけれども、身にしみて再度確認できたというところで、待っているだけではなくて自分たちみずから動いてという部分をまだまださらにやりたいというようなお話もいただいておりますので、我々といたしましては本当によろしく願いしたいというところで現状は進んでおります。

あと、天売島内の診療所に対する支援体制でありますけれども、天売診療所連絡会というものを天売診療所と消防の天売分遣所、警察の天売駐在所、天売支所がつくりまして、定期的に、あと随時協議を行いまして横の連携を深めているという状況です。その中で、我々健康支援課の保健師だとかが天売に行って看護師さんと歓談をして、医療関係の悩みごとですとかそういう部分を共有しながらバックアップ体制をとっているという状況であります。天売診療所については側面からいろいろな部分でバックアップしながら、看護師さん、事務長の負担を極力減らせるような形の努力を島内でも行っているという状況であります。

あと、1枚目の資料の中で通常診療というところに丸が4つあるうちの4つ目ですけれども、遠隔診療の部分でありますけれども、これにつきましては現在道のほうでテレビ会議システムというものが試験的に置いてあるという状況です。現状は使っていないということなのですけれども、道の中で道立病院と地域医療課のほうで検討をしております、お医者さんがいないという状況も踏まえて何とかというふうなことを道のほうで考えているという状況でありますので、まだまだ何をどうするかという部分は全く不透明でありますけれども、今後羽幌町とも協議を進めたいというところありますので、道のほうでそういうような検討がなされた後羽幌町のほうにお話をしたいということでありますので、これに関しましては現状これ以上の情報はないという状況でありますので、ご了承をいただければというふうに思います。

私の説明は以上です。

平山委員長 10:42～10:43

今担当課のほうから説明がありました。看護師さんの部分では辞表を撤回されて残ってくれるということですが、その部分では一安心かなと思います。あと、医師について

はずっとあれなのですが、道のほうも一生懸命探しているけれどもなかなか見つからないと。町としても保健師さんとかが島のほうへ行っていろいろサポートはしてくれるというご説明がありました。今の説明を受けまして、委員の皆様方から何か意見があれば出していただきたいと思います。せっかく町長もいらしていますので。

—主な協議内容等— 10:43～11:04

小寺委員 確認なのですけれども、お知らせの中では8月20日から看護師さんが不在になるということだったのですけれども、いつから復帰というか、されたのでしょうか。

鈴木課長 先ほど言いましたとおり、辞表の中身が9月30日付で退職というような中身であったそうです。次の看護師さんの職場の確保等々を含めて有休消化で8月20日以降はいないときがあるという状況になったので、8月20日以降はというようなお知らせを島民の方に診療所のほうから出したというのがこのペーパーでありまして、ただ、いるときは看護師さんは診療所のほうに詰めていたという状況です。現実問題、私たちが町長と町政懇談会で赴いたときも診療所にて従事をしていたという状況でありますので、8月20日というのは、この日以降休暇に入るという日付であったということです。でありますので、現在は通常どおり働いているという状況です。

小寺委員 そうしたら、今日現在も通常どおりの勤務に戻ったというか、平日というか、は常時いらっしゃると。昨日か何がしがあつた時点からはずっと通常の勤務になったということによろしいのでしょうか。

鈴木課長 そういうことです。

平山委員長 ほかにありませんか。

工藤委員 いずれにしても道立病院ですから道の管轄になるのですけれども、町に住んでいる方の命と健康を守るためにということになると、私たち議員として、あるいは行政側としても真剣にこれに向き合わなければいけな

いと思っております。医師がいないということはまだ続いておりますので、道からも説明に来たということでありましたけれども、羽幌町としてもこちら側から一度出向いて、一生懸命やっていたいただいているけれども、島民のことを考えて速やかに、できるだけ早く医師の確保をしてほしいということで、行政側と私たち議会側と一緒に道の関係機関に行ってお願ひするという、そういう行動をとることがいいと思うのですけれども、どうでしょうか。

駒井町長 過去にも行った経緯がございますので、時間が許せばまたそういう取り組みもしなければならないのかなというふうには思っております。

平山委員長 そのほかありませんか。

阿部委員 看護師さんが辞表を撤回してくれたというので、ひとまず安心していいのかなという思いもありますけれども、どうしても1人でやっているということで、休日、夜間といえども気を張って生活していく中で、町のほうもバックアップであったり先ほどおっしゃっていましたがけれども、その辺ある程度負担をかけないようにしてあげないと、一度は辞表を出されているわけですから、負担になってくれば同じようなことの繰り返しといったこともありますので、その辺、例えば休日別な人が来るとかそういった可能性というのはあるのかどうか。

鈴木課長 休日をとって不在になる際は代替の看護師さんが来るというのは、従前から道のほうで体制はとっているという状況です。

阿部委員 そういった体制を築きながら、今まで以上にできるだけ、気持ち、心の負担をかけさせないようにしていただきたいと思ひますし、確認として医師の方は月何日ぐらい島のほうに来られているのか。確認として。

鈴木課長 現状は週2日でありますので、月でいくと8日ですか、という状況で代替医師が来ているという状況です。

阿部委員 月8日ということですがけれども、これから秋になって、冬になってとい

うふうになってくると、特にフェリーが出ないということによってまた島民の方も不安になってくる部分がありますので、その辺なかなか解決しづらい部分も当然あるかと思えますけれども、できるだけ、見つけるのが一番理想ですけれども、そういった対策というものも今後ぜひとも考えていただきたいと思います。

鈴木課長 8月の28日に行った町政懇談会でも9月3日に行った道のほうでの説明会でも島民の方から同じようなお話をいただきまして、解決は難しい問題なのですけれども、我々も道のほうも同じような問題意識は共有しておりますので、できるだけ不安を払拭できるような部分でということころで、だからどうするということころまでは至っていないのですけれども、心情的には共有しているという状況で、それも含めて道の地域医療課のほうは常勤医さんを確保するのが最優先ということころで進みたいという、現状はそういうようなところですよ。

平山委員長 ほかにありませんか。

逢坂委員 まず、常勤医を探すことが僕も第一だと思います。そして、看護師さんが残ってくれたということも大変喜ばしいことだなというふうに思います。ただ、それで全面解決したわけではないというふうに思いますし、今阿部委員が言ったとおり、冬場、これから約5カ月間、離島においてはなかなか時化があれとなって、医師も行けないという事態も発生すると思います。

それで、天売島については当分の間医師が見つからないような、私としては今までの経過を見るとそういうふうに見受けられるわけございまして、これは1つ、自分の案なのですが、看護師さんの負担もそうだと思いますが、消防職員1名、救命士を消防署のほうで、これは羽幌町の負担金でございまして、1名派遣している現状でございまして。常勤医もない、看護師さんの負担も大変だという状況下の中で、これから冬場を迎える。医師がいつ見つかるかわからない状況の中で、あくまでも私の私案でございまして、昔、実は離島分遣所については職員2名体制をとっていた時期が数十年あります。そういうことになると、天売島だけがというわけではないのですが、今の現状を考えると2名体制にする

ことも、限定つきではあるが、そういうようなものを考える必要もあるのではないかと。なぜかという、救急医療体制、緊急時の医療体制については、消防職員については今救急救命士ばかりですので、そういう対応も速やかにできる。医師の指示のもとにいろんな処置ができるようになりましたので、そういうことも考えるべき1つの案でないかなと私は思うのですが、その辺は考えていることがあるかどうか。また、これからそういうことも検討する事案になるのかどうか、その辺をお聞きしたいなと思います。

鈴木課長

現状では、今のところそのような部分についてこちら側で検討した経過はありません。現状は、先ほど申しましたけれども、看護師さんとか診療所の負担を軽くするというだけではなくて、さっきも言った連絡会の中で、今逢坂委員おっしゃられたような、消防職員もどんどん疲弊していったら大変なことになるというところで、天売島内では診療所だけではなくて消防職員の負担もというところでいろいろ話し合ったりだとか考えたりだとかをしているという経過はあろうかと思えます。おっしゃれるとおり、救命士さん自体がいるというところは天売島民の方も、それこそ本当に看護師さんがいなくなるという状況のときには、今度は分遣所の消防職員が疲弊してしまうのではないかとというところで、天売の島民の方たちも大変心配をされていてという状況もありました。看護師さんがいなくなって医療従事者がいなくなるという部分で、負担をそういう職種の方たちにかかるというのはよくないというところで、天売島内の空気もそういう空気になってきております。だからといってそれでいいということではないのですけれども、現状は天売の中でそのような取り組みがなされているので、それを我々も注視をしながら検討したいという部分であります。プラスして消防署の部分になってきますので、我々としてもこの場で具体的にどうというようなことも言える状況でもありませんので、現状では天売診療所連絡会の中で負担の分散とかそういう部分が協議をされていて実行されているという状況にありますので、現状ではそういう部分を注視をしていきたいというふうに思っております。

逢坂委員

課長の言うこともよくわかります。ただ、天売島においては非常事態だ

と私は思っていますので、看護師さんがやってくれるという部分もあるのですが、看護師さんの負担も含めて軽減するためには、天売島全体のことを考えると今一番動かせるのは、あくまでも町が負担している消防署ですから、他町村からお金をもらっているわけでないので、昔の2名派遣したときの定数と今の定数は変わっていないわけですから、1名多く短期的に派遣したとしても、1年になるのか2年になるのか、それを交互に繰り返して昔はやっていたわけですから、十分救急救命士の負担も、実を言うとそういう内容を僕聞いているのです。精神的負担がかかってきている、つらいということは実は聞いています。そういうことも耳に入っていますので、2名体制という昔やっていた体制があったわけでございますので、なかったものをやれというわけでないので、何十年も2名体制でずっと離島はやっていたわけでございますので、できないわけではないと自分では思うので、ぜひそこを再度緊急的に、町長さんは管理者としているわけですから、検討してみるべきではないかと自分は思いますが、その辺はどうですか。

駒井町長 ご提言をいただきましたことにつきましては検討させていただきたいと思えます。

平山委員長 そのほかに。

磯野副委員長 同じ島に住んでいる人間として、4月からいないということで、大変心配もしていました。現実問題、看護師さんが1人で、実は4月から今までに急患が何件か発生して、その中の1件は医師がいないときに運ぶ暇もなく天売で亡くなられ、そのときの看護師さん、それから消防職員は大変だったというふうに聞いておりました。ただ、今までの中に、道のほうにも聞いたのですけれども、何名か応募もあったと。ただし、年齢が道のほうでは69歳までとなっているところに70過ぎの人がという話もちらっと聞いたのです。先般浅野道議のほうで道の総務委員会でその話を持ち出していただきまして、定年、条例ですから変えなければならぬのですけれども、何とかならないか委員会で提案されたのですけれども、なかなか条例を変えることはできないので、何とか臨時だとかそういう方法で年齢が上の人も使えないかということで対応していただい

るというふうに聞いていますので、その辺はぜひ町のほうもそういう連絡をとっていただいて、天売の人も、この間話を聞いてきたのですけれども、別に70を超えたからといって、本人が承知で頑張るのだよと言ってくればいいのかという話も聞いていますので、ぜひその辺は町のほうも強く押していただきたいと思います。

それから、看護師さんが残っていただけるということは本当にありがたいことでした。もしいなくなったときのことを考えたときに、看護師さんも実は定年制がありまして、59歳未満、そして58歳以下でないと離島では看護師さんができないという部分がありますので、そういうことも含めて、焼尻のほうでは看護師さんを募集しているのですけれども、ぜひ町のほうでも強く言っていただきたいと思います。

そういう中で、先般天売に伺ったのですけれども、島民の方も心配して、できれば島民からそういう要望書等を、皆さんの署名をいただいて、ぜひ町を通じて道のほうに届けたいのだという思いを言われてきたのですけれども、そうなったときにはぜひ町長を先頭に道のほうに伺ってお願いをして、島民も何人か行って思いを届けていただきたいと思うのですけれども、その辺は町長、いかがですか。

駒井町長 現実的にそういうお話をいただければ検討したいと思っております。

磯野副委員長 ぜひそのときは、島民のせっぱ詰まった意見ですので、多分署名を集めれば100%集まるだろうと思っているのです。ぜひそういうものを持って、以前にもそういう要望書等を持って道に行ったこともありますので、ぜひ町長、それから議会、島民、この三者で道のほうに行っていただければなと思っています。

もう一点、この中で遠隔医療の話が出てきたのですけれども、遠隔医療の機械が入ったのは聞いていました。ただし、それは担当課の部分でしょうけれども、あくまでも前提としては医者と医者がという前提だと思っております。ですから、医者がいない中では宝の持ち腐れみたいになっているのだと思うので、さっき言いましたけれども、その辺の利用等についても、道のほうでも検討中ということでもありますので、うまく使えるような方法があればぜひ使っていただきたいと思うのですけれども、その辺は担当課としても強くお願いしてほしいと思うのですけれども、い

かがですか。

鈴木課長 遠隔医療に関しましては、現状では先ほど言ったとおりなのですが、実は医療法的になかなかという部分が今まではあったのですが、そういう部分もクリアされつつあるというようなことも聞いておりますので、我々としてはこういう事態、医師がいないという状況の中では本当に必要だと思っておりますし、仮にお医者さんがいたにしてもこういうものは助けになるのかなというふうに認識しておりますので、前向きにといいますか、道のほうとどういうものがあるのかなとかという部分については、道がとりあえずどういうものをとという部分を検討しておりますので、それができ次第協議をとというふうな申し出も受けておりますので、その流れで進めたいというふうに考えております。

平山委員長 あとありませんか。(なし。の声) 最後に私のほうから。私の思い、今いろんな委員さんから出されていましてので特別言うことはないのですが、先ほど工藤委員のほうから、行政、議会一体となって道のほうに行ってほしいのだよという意見がありました。それは私も本当に必要なことだなと思っておりますので、今後こういう状況が続く限り一緒にぜひ、町長の日程に議会が合わせてでも行きたいと思っておりますので、その辺はよろしくお願ひしたいと思ひます。それでは、今日の委員会、これで締めたいと思ひます。どうもご苦勞さまでした。